２０２５年（令和７年）　７月１７日　木曜日

デーリー東北　１５面　掲載

強豪相手に大きく飛躍

ボルダーW杯 年間総合4位関川（光星高）

「差は縮まっている」

参戦３年目、手応え

スポーツクライミング・ボルダー競技の関川愛音（八学光星高）は、参戦3年目の今季ワールドカップ（W杯）で年間総合4位に入り、世界を舞台に大きく飛躍した。第1戦（中国）で初めて決勝の舞台に立つと、全6戦中5戦で決勝進出。第4戦は3位となり、初のメダルを獲得した。関川は本紙取材に「決勝が遠いものではなくなった。強い選手との差も縮まってきているのを感じることができた」と今季を振り返り、確かな手応えを示した。

（小嶋嘉文）

第1戦から躍進

W杯は4月18日の中国での第1戦を皮切りに、ブラジルや米国、欧州で全6戦が行われた。

躍進のきっかけとなった第1戦は「疲れが全くないフレッシュな状態で、コンディションが良かった」。予選をいきなり1位タイで通過。準決勝では、難易度の高い前半の課題を完登できなかったが、足先などでバランスを取る後半の課題で2完登し、日本人トップの3位タイで初の決勝へ駒を進めた。

決勝では6位となったが「（決勝は）ずっと目標にしてきたので、本当にうれしかったし、表彰台も見えてきた感じがした」と振り返る。

第2戦（ブラジル）も決勝に進出し5位。第3戦（米国）は今季唯一決勝を逃し、準決勝敗退となった。

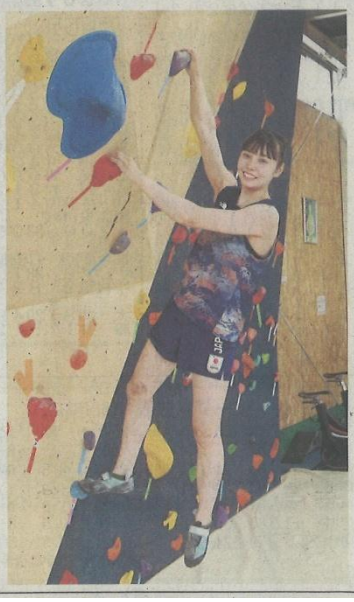
第4戦（チェコ）は、準決勝で4課題中2課題を完登。3位で決勝進出を決めたが、悪天候で中止となり、準決勝の結果がそのまま最終順位となった。

ただ、本人としては自信のあった一戦。「調子も良く、優勝を狙うならここだという感触があった」と、初のメダルにも悔しさをにじませた。

第5戦（スイス）は8位。最終戦の第6戦（オーストリア）は上位を狙うも得点が伸びず、7位で終戦となった。

今季のワールドカップを振り返る関川愛音＝11日、八学大

関川がワールドカップで初めて獲得した銅メダル



さらなる飛躍を誓う関川

収穫と自信

今季計5戦で経験した決勝では、戦い方の違いを知った。W杯の予選、準決勝は、トライできる制限時間が5分だが、決勝は4分。「1分かってはいたが、1分の違いは大きかった。5分だと修正できるものも、（決勝では）一度手順を間違えると完登するのが難しくなる。メンタル的にも厳しかった」と痛感する。

それでも、世界との差が縮まりつつあるという実感と自信を得たことは大きな収穫だ。特にそう感じたのは、憧れの五輪金メダリスト、ヤンヤ・ガルンブレト（スロベニア）が制した第6戦。東京、パリ両五輪の複合（ボルダー、リード）女王と対戦し「少しずつ手が届く存在にもなってきた。今の自分は全然負けてない」と力を込める。

9月開催の世界選手権出場も有力視される関川。「海外での戦いにも慣れてきた。さまざまな大会を経験しながら、さらに強い選手を目指していきたい」とさらなる飛躍を誓った。

デーリー東北新聞社提供